

お客様各位

---

## カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

---

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日

ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

## ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りが無いことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。  
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット  
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）  
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

**必ずお読み下さい。**

**I/O DLL キット V.2.00  
リリースノート  
第1版  
株式会社ルネサス ソリューションズ  
2007年8月1日**

**概要**

本資料は I/O DLL キットの構成、セットアップ手順、ユーザーズマニュアルの補足等について説明します。このキットをご使用の際は、このリリースノートもご覧いただきますようお願い申し上げます。

**目次**

<b>1. 製品の構成</b> .....	<b>2</b>
1.1 I/O DLL キット インストールプログラム .....	2
<b>2. 動作環境</b> .....	<b>2</b>
2.1 ホストマシン環境 .....	2
2.2 開発環境 .....	2
2.3 対応する製品、およびそのバージョン .....	2
<b>3. 技術サポート</b> .....	<b>2</b>
<b>4. セットアップ手順</b> .....	<b>3</b>
4.1 I/O DLL キットのインストール .....	3
4.2 I/O DLL の登録 .....	3
<b>5. 注意事項</b> .....	<b>3</b>
5.1 メモリへの入出力 .....	3
5.2 I/O DLL の複数指定 .....	3
<b>6. バージョンレポート</b> .....	<b>4</b>
6.1 I/O DLL キット V.2.00 .....	4
6.2 I/O DLL キット V.1.20 .....	4
6.3 I/O DLL キット V.1.10 .....	4

## 1. 製品の構成

I/O DLL キットは、シミュレータデバグの機能を拡張するためのキットです。  
I/O DLL キットは、以下のものから構成されています。

### 1.1 I/O DLL キット インストールプログラム

このインストールプログラムを実行すると、ホストマシンに I/O DLL キットがインストールされます。

ディレクトリ	内容
Library	I/O DLL 作成用ライブラリ
Samples	I/O DLL のサンプルプログラム、マニュアル
Manual	I/O DLL キット ユーザーズマニュアル I/O DLL キット リリースノート(本資料)

## 2. 動作環境

### 2.1 ホストマシン環境

I/O DLL キットは、ご使用のシミュレータデバグのホストマシン環境に依存します。シミュレータデバグのホストマシン環境については、各製品のリリースノートを参照ください。

### 2.2 開発環境

I/O DLL キットを使用して I/O DLL を作成する場合、Windows アプリケーション開発ツールである Microsoft Visual C++ (以下 VC++ とする) が必要です。弊社では、以下の VC++ のバージョンで動作を確認しています。

ツール名	バージョン
Microsoft Visual C++	6.0

### 2.3 対応する製品、およびそのバージョン

I/O DLL キットは、以下のシミュレータデバグに対応しています。

製品名	製品バージョン
R32C シミュレータデバグ	V.1.00
M32C シミュレータデバグ	V.1.00 ~ V.1.03
M16C R8C シミュレータデバグ	V.1.00 ~ V.1.03

これ以外の製品、およびバージョンでは使用できませんのでご注意ください。  
シミュレータデバグ M3T-PDxxSIM をご使用の場合は、I/O DLL キット V.1.20 をご使用ください。

## 3. 技術サポート

I/O DLL キットについての技術サポートは、ホームページ (URL : <http://japan.renesas.com/tools>) に情報を掲載する事によってのみ対応させていただきますので、あらかじめご了承ください。

## 4. セットアップ手順

以下の手順でセットアップしてください。セットアップ手順は、ご使用のホストマシンにインストールされたデバッグおよびその製品のバージョンによって異なる場合があります。

### [注意]

ホストマシンのOSがWindows XP/2000/NT 4.0の場合は、administratorの権限を持つユーザでセットアップして下さい。 administratorの権限を持たないユーザでは、インストールを完了することができません。

### 4.1 I/O DLL キットのインストール

I/O DLL キットのインストールプログラムを実行してください。

### 4.2 I/O DLL の登録

I/O DLL キットに含まれている I/O DLL を使用するには、I/O DLL をシミュレータデバッグへ登録する必要があります。

以下に、シミュレータデバッグに I/O DLL を登録して使用方法を M32C シリーズ用シミュレータデバッグの場合を例にとって説明します。他の機種の場合は、“308”の記述を対応する機種名(“100”、“30”等)に読み替えてください。

1. シミュレータデバッグをインストールしたディレクトリに I/O DLL ファイル(“.dll”)をコピーしてください。シミュレータデバッグは以下のディレクトリに格納されています。  
"HEW インストールディレクトリ  
¥Tools¥Renesas¥DebugComp¥Platform¥PDTarget¥PD308SIM"
2. I/O DLL をシミュレータエンジン sim308.exe へ登録します。登録するには、sim308.exe の環境設定ファイル sim308.ini ファイルに I/O DLL ファイル名を記述します。  
sim308.ini ファイルは、シミュレータデバッグをインストールしたディレクトリに存在します。ただし、シミュレータデバッグをインストールして一度も起動していない場合は作成されていないので、別途エディタ等で作成してください。
3. sim308.ini ファイルでは、以下のように[DLLNAME] セクションを作成して、I/O DLL ファイル名を "IODLL=" の後に拡張子 ".dll" を取って記述してください。

(例) I/O DLL ファイル名が "Sample.dll" のとき

```
[DLLNAME]
IODLL=Sample
```

4. シミュレータデバッグを起動すると I/O DLL がロードされます。  
なお、I/O DLL を使用しない場合は、sim308.ini ファイルに作成した[DLLNAME] セクションの記述を削除して、シミュレータデバッグを起動してください。

```
[DLLNAME]      削除
IODLL=Sample   削除
```

I/O DLL キットについての詳細は、「I/O DLL キット ユーザーズマニュアル」を参照ください。

## 5. 注意事項

### 5.1 メモリへの入出力

I/O DLL を使用してメモリへ入出力した値の変化は、シミュレータデバッグの GUI 出力機能、仮想ポート入力機能、仮想ポート出力機能、および I/O スクリプト機能を利用して参照することはできません。

### 5.2 I/O DLL の複数指定

シミュレータデバッグへ指定できる I/O DLL は、1つのみです。複数の I/O DLL を指定することはできません。

## 6. バージョンレポート

本節では、変更したソフトウェアの仕様について説明しております。

### 6.1 I/O DLL キット V.2.00

本バージョンでは、前バージョン I/O DLL キット V.1.20 から以下の仕様を変更しました。

#### 6.1.1 機能拡張

- 以下のシミュレータデバッグに対応しました。
  - R32C シミュレータデバッグ
  - M32C シミュレータデバッグ
  - M16C R8C シミュレータデバッグ

### 6.2 I/O DLL キット V.1.20

本バージョンでは、前バージョン I/O DLL キット V.1.10 から以下の仕様を変更しました。

#### 6.2.1 機能拡張

- M3T-PD308SIM V.3.10 Release1、M3T-PD30SIM V.5.10 Release 1 に対応しました。

### 6.3 I/O DLL キット V.1.10

本バージョンでは、前バージョン I/O DLL キット V.1.00 から以下の仕様を変更しました。

#### 6.3.1 制限事項の改修

- M3T-PD30SIM でシンボルウィンドウがオープンできない制限事項を改修しました。  
(詳細は、2002年11月1日発行のツールニュース(MAECT-10DLL-021101D)を参照)

#### 6.3.2 機能拡張

- M3T-PD32RSIM V.2.00 Release1 に対応しました。

以上